

今回の地震に対する各私学の取り組み（抜粋）

今回の地震に対して具体的にどんな取り組みをされたのかをお聞きしました。一部の学校は回答が早かったため計画停電に対する対応に触れていない学校もあります。

学年末の行事や地震に対する今後の対応でお忙しい中ご回答をいただき有り難うございました。

（1）地震が起きたときどんな対応を取られましたか

- 1 定期考査だったので、校内には30名ほどの生徒しかいなかった。生徒を一ヶ所に集め、余震に備えた。
- 2 生徒を、すぐに校庭に避難させた。すぐに部活動ごとに点呼を行い、並行して校舎内が無人であること、校舎に被害があるかどうかを確認した。
- 3 当日は期末試験後の授業のない日で、大勢の生徒が出校して部活動を行っていたが、地震の後しばらく様子を見てからその日の活動中止を決定。
- 4 地震防災訓練通り、速やかに1次非難、2次非難、3次非難を行いました。大きな混乱もなく安全に避難しました。
- 5 試験休みであり、行内にいた生徒は通常よりかなり少なかった。生徒を集め安否確認を行う。ほぼ、200名くらいの生徒が校内に残っていました。
- 6 起きた時は安全確保その後、校庭に集め状況把握（生徒の安全、校舎の損害状況、交通機関の状況含め）その後、校舎の安全性が確認できたので校舎にて待機。
- 7 校内にいた生徒たちを、安全な場所に移動させ、校内にいる生徒の指名の確認を行いました。
- 8 当日、本校は登校日ではなく、部活動や補習などのために120名ほどの生徒が登校しておりました。地震が起こったとき、それぞれの活動場所で担当教員の指示のもと机の下に身を隠すなどしました。また、職員室にいた教員も各階に行き、生徒に落ち着いて行動するように指示を出しました。揺れがおさまってから放送指示で職員室前ラウンジに生徒を集合させ、団体ごとに点呼をとりました。各団体の全員の無事を確認した後、それぞれの待機場所を指定し生徒を落ち着かせてから、教師が情報を得ながらその後の対応を検討いたしました。
- 9 校内にいる生徒の安全を確認した。
- 10 身の安全を確保するよう指示し、揺れが収まった後、校庭に集合させて学年クラスごとに氏名の確認を行いました。この時すでに、保護者から確認の電話が入っていたので、学年クラスごとに集合させて良かったと思います。二度目の大きな揺れが起きたときは、全員校庭にいたため、比較的落ち着いた状態でした。その後、すぐ近くの広域避難場所に移動させてしばらく待機し、午後4時ごろには学校に戻りました。
- 11 テスト期間であったため、半数以上の生徒は帰宅ないしは帰宅途中でした。私自身も

出張中のため、直後の協議の状況は推測も入ります。

(1) 校内の生徒は集合させて、先生がいる部屋に待機させた。

(2) それ以外の生徒のリストを作成した。

(3) 出張中の教職員の安否連絡を行った。

(4) 生徒・保護者向けの一斉メールで帰宅した生徒、帰宅中の生徒については学校に連絡を取るよう依頼。

12 緊急時の対応マニュアルどおりに生徒の安全を確保しました。

13 中学生は部活動等の生徒が登校しており、顧問の指示で安全を確保。高校生はテストを行っていたが、中断し、机の下に入り安全を確保。

14 大きな揺れが起きた時に校内放送で全員校庭に出しおちつくことと、諸注意をし、揺れが収まった所で各教室で待機させました。

15 エレベーターの使用は禁止にして、全校生徒に階段で体育館に集合するように、放送しました。

16 試験休みのため、クラブ・補習で登校の生徒は約320名でしたが、すぐ帰宅の用意をさせ、体育館に集め、点呼をとり名簿をつくりました。

17 帰宅困難の生徒を学校に泊めました。

18 授業はありませんでしたが、クラブ・補習等で100名ほど学校にいました。机の下にもぐらせ、地震がおさまるまでその態勢を続けました。全員無事でした。

19 この日は、本校では期末試験3日目になっておりましたので、大半の子供たちが下校しておりました。校内には、40名ほどの子どもたちと教職員がおりました。とにかく机の下などに潜り、頭を保護することを優先させました。揺れが収まるまで、そのままにし、その後、校内に残っていた生徒たちを安全な場所に集めました。

20 揺れがおさまった後、放送で校内にいる全生徒をグラウンドに集合させ点呼をとり、けが人や体調不良者がいないかの確認をとりました。

21 当日、中学生約700名、高校生約150名が校舎にいました。ほとんどの生徒が学校に泊まりました。食べ物、飲み物、宿泊用の毛布の用意がありましたので問題はありませんでした。

22 高校の合格者招集日で、説明会開始直前の地震であり、講堂に保護者および入学予定者が約150名参集していました。また、部活動を行う生徒が約250名校内にいました。地震発生時、直ちに人工芝の校庭に全員を誘導・避難しました。在校生については、避難訓練時と同様に全員の点呼で安全を確認しました。その後、余震もあったため、その場に待機し、説明会もその場で簡潔に実施しました。

23 期末考査中だったので、学校に居残って勉強をしていた30名程度の生徒に加えて「受験結果を報告に来ていたOB合わせて70名程度を学校内に留めて学校管理下としました。

24 当日は定期試験最終日翌日でしたので、クラブ活動の生徒と一部の補習を受ける生徒が登校していました。地震発生時、揺れが大きかったので、まずは各場所で安全を確保さ

せ、揺れが収まったところで、登校している生徒を内庭に集合させました。その間、教員が各教室を回り、生徒がいないかどうかを確認しました。集合させた生徒のまずは名簿を作り、点呼確認しました。何回かの余震の後、体育館に移動させました。

25 揺れとともに一切のクラブ活動、課外教室などの活動を止め、各場所にて頭上からの落下物に注意するように、机があるところでは、その下で身を守るように指示した。生徒に一切の被害は出なかった。校舎に全く異常がみられず、内部の散乱などもないため、グラウンドに避難させることはせずにヘルメットを着用して、体育館に全員を集合させ、クラブ、活動団体ごとに点呼し全員がいるかを確認した。その後、暖がとれる集会室に全員を移動した。災害対策本部を設置。

26 校舎内の生徒：地震による揺れがおさまるまで机の下に身を隠す。揺れが収まりしだいグラウンドへ避難。

グラウンド内の生徒：建物から離れたところに集まる

当日は午前中授業、午後、中学3年は学年集会（13：30～15：30）その他の学年はクラブ活動、生徒会活動、自習室利用などで約1000名の生徒が学校に残っていた。

27 緊急放送にて生徒を第一グラウンドへ避難させ、点呼。北鎌倉駅で足止めされている生徒の呼び戻し。

28 直後、旧校舎にいた生徒たちを新校舎に移動させる。（耐震性の問題）

29 地震発生後、直ちに校舎内の生徒へグラウンドに避難するよう、教員が直接伝達。同時に校内放送で、グラウンドへの避難を指示しました。

（2）地震の後の対応はどうされましたか

（当日の対応）

1 交通機関が止まっていたので、生徒が校内に泊まる準備をした。

2 約1時間校庭に避難した後、部活動ごとに教室を指定し、待機させた。

在校者名簿を作成し、問い合わせに答えられるようにした。

生徒には、家族に対し、各自の携帯電話で無事を知らせるよう指示した。携帯電話を持たない生徒には、学校の電話を使用させた。本校のHPに、生徒が無事である旨をアップした。

交通機関の運転再開まで相当時間がかかることが予想されたため、夕食、宿泊の準備を開始した。

交通機関の運転再開に備え、スクールバスを待機させた。

本校のHPに、徒歩で帰宅できる生徒は家庭と連絡のうえ帰宅させること、迎えが可能な保護者の方は学校で生徒を引き渡すこと、帰宅が困難な生徒は学校に宿泊させる旨をアップした。

家庭と連絡が取れない生徒をリストアップした上、本人の承諾のうえ氏名を本校HPにアップし、無事であることを知らせた。

食堂で夕食を用意し、食事をとった後、男女別に部屋を用意して就寝させた。

3 交通機関が麻痺して帰宅出来ない生徒が約 600 名おり、とりあえずしばらく待機して様子を見ることにしたが、交通機関の早期回復がむずかしいことが分かったので、その日は学校にとどめることを決めてその準備に取りかかる。親が迎えに来て帰る生徒もあって、最終的にはおよそ 500 名が体育館で夜を過ごした。災害時用に備蓄してあるカンパンと水、毛布、防寒アルミシートなどが役に立った。翌日は早朝から次々に親が迎えに見えて、正午までには全員を保護者に引き渡すことが出来た。

4 交通機関の混乱および不通が生じたため、5時、6時、7時、8時の段階でそれぞれ対応を判断、生徒に伝え、保護者が迎えに来る場合を除き、学校での避難としました。当日は試験最終日でその後、部活動、中学3年生オリエンテーション、大学の先生方による大学説明会（当日は女子大説明会）のため多くの保護者の方も来校していました。結局生徒約350名、保護者約40名、卒業生10名、大学説明会のため来校していた大学の先生方20名、および約60名の教職員が学校での宿泊となりました。上級生が下級生の面倒をよく見ていたのが印象的でした。

在校生分の食糧、水、防寒シートなどの緊急避難用品を常備しており、また体育館は暖房完備のため、余震の不安を除けば落ち着いて過ごしていました。下校中の多くの生徒が学校に戻ってきたが、電車内や駅で足止めになった生徒もいた。在校生同士で（上級生が下級生を）助け合った連絡を多く受けました。

横浜共立から寝袋の供出をいただきました。

HP上に安否情報を載せました。けが人はなく、体調不良が2名。図書室で本が当たった生徒1名（けがなし）。養護教諭が対応。

生徒、保護者（母親）は体育館フロアーに宿泊。女性教諭が4人ずつのグループで夜間も安全確認。

保安上、正門そのほかの入り口を施錠。迎えにいらっしゃる保護者があるため、警備室（正門わき）で保護者の対応を行う。（12時過ぎにも迎えの保護者が続いた）男性教諭も順番に職員室で対応。

5 帰宅できない生徒は約70名ほどであり、学内のセミナーハウスに宿泊させた。人数が少なかったため食事、寝具ともに充足していた。

6 校舎の安全確認後、保護者が迎えにこられる生徒以外は学校に宿泊、非常食用の乾パン、ジュース、サバイバルブランケットを支給（水道は確保できていたので万が一止まった時の為に保存水の用意）保護者への連絡をしつつ、19：30に保護者用掲示板（パスワード必要）にて宿泊者のリストを掲示（2～3時間ごとに更新）夜食としてハンバーガーを支給。暖房設備の安全性が確認できたので暖房を使用。生徒の精神的なケアを含め24時間教員が生徒の宿泊教室の前で待機。

7 家庭との連絡をし、迎えにこられる方にはできるだけ来ていただきました。校内に残る生徒たち(約100名)を職員室に近いいくつかの安全な教室に集め緊急用の毛布などを配

布、飲料、食料を近所のダイエーから大量に買い込み配布しました。色々に対応するための教職員 40 名ほども学校に泊り込みました。緊急連絡メールとHP、電話を使って連絡をしました。

8 生徒の無事を確認後、生徒各人に「エマージェンシーパック」を配り、団体ごとに所定の場所で待機させました。家庭へは「子ども安全連絡網」・学校ホームページで、まず「学校にいる生徒全員の安全確認をした」ということを知らせました。その後、「可能な場合は迎えに来てほしいこと」を伝え、さらにその後、「残っている生徒は帰さず学校で預かり、翌日家庭と連絡をし、どう行動するかという行動の確認をした後帰す」ということを知らせました。

最終的に 80 名の生徒が学校で一晩を過ごすことになったので、食糧を調達し、調理室で米を炊いておにぎりを作り、夕食として食べさせました。22:30 就寝、翌朝 6:00 起床の指示を出し、和室など 2 箇所に分けてやすませました。それぞれの部屋には、女性教員が一人ずついるようにしました。翌日も女性教員が早朝からおにぎりを作り、6:30 ごろ一室で朝食を食べさせました。食後、帰宅に際しての行動確認をした後、学内の公衆電話や学校の電話で家庭との連絡を取らせ、自分で帰宅する者は担当教員にその旨を告げて帰宅しました。迎えの来る者はそのまま待機させ、迎えが来た段階で保護者に引き渡しました。

最後の一人を保護者に引き渡したのは 12 日の 11:00 くらいでした。

9 家庭と連絡をとり、生徒を迎えにきてもらう依頼をしたが、交通機関がストップしていたため、迎えに来られない家庭もあった。校内に残った生徒に対しては、食事と寝るための用意を提供し、教員とともに校内で交通が回復するまで、待機した。結局翌日の午前中まで待機となる。

10 学校に残っていた生徒は、下校ルートごとに氏名を確認し、教員の運転（学校の車と学園バスを使用）により路線ごとに最寄り駅まで搬送しました。保護者が迎えに来る生徒については、しばらく学校待機となりました。下校できない生徒（最終的には 10 名弱）については、学校に泊らせることにしました。

翌日は臨時休校とし、休校措置については、夜のうちにホームページにもアップしました。担任を中心に、生徒の安全についてと、翌日の休校措置について、緊急連絡網を使って一人ひとりの家庭に、夜遅くまで電話で確認しました。なかなか連絡がつかない家庭もあり、当日のうちに生徒全員の確認まではできませんでした。全校生徒のうち数名は連絡が取れずじまいでした。携帯電話だけでなく、自宅の固定電話もつながりにくかったので心配でした。

11 交通のストップが確認できた段階で

(5) 駅にいる生徒は学校に戻るよう指示するとともに、現地確認のために教員が行く。

(6) 安否確認のとれていない生徒に対して、このあとは継続的にご家庭と本人の携帯電話に連絡を取っていった。

(7) 校内にいる生徒には、保護者に連絡を取らせてできる限り車で迎えに来てもらう。帰宅する生徒の近くの物は同乗することも依頼。車で帰宅する教員にも可能な生徒は送ってもらった。

(8) 全生徒と保護者には、当面の対応として、翌日は休講として自宅待機を一斉メール、ホームページで連絡。

(9) 約70名の生徒は帰宅できないため、校内の宿泊施設(研修寮、ホテル)に場所を確保した。夕食は非常食のカレーライスを提供した。宿泊場所には2～3名の教員が宿泊。翌朝に保護者に迎えに来てもらう。その時点でも4名は交通手段がなくもう1泊してその翌日に帰宅。

(10) 帰宅途中で電車から降ろされた中学2年生は、携帯電話を持たないため、一度本人から母親に公衆電話で連絡があったが、居所が不明。途中駅付近に教員2名が捜索に向かう(21:00頃)。23:30頃に柏の葉にいたことが本人の横にいた方の携帯を貸してもらい家庭に連絡が入り判明し、迎えに行けた。24:30頃に学校に到着。

(11) 近くではあるが安否確認が取れない生徒について、宿泊している生徒から、MIXIに無事との書き込みがあったとの情報を得て、その生徒から安否不明の生徒に学校に連絡する旨の依頼をさせた。電話を学校からかけても反応がなかったが、その生徒から電話が入り無事帰宅していたことが分かった。24:30頃この時点で生徒全員の安否が確認できた。

(12) 母親が迎えに来ている1名の生徒については、同じころに到着。国道の大渋滞で、普段20分の距離が3時間以上かかっていた。

12 緊急メール配信を行い安全の確保を保護者に伝達しました。学校に残っている生徒は学校で保護し、帰宅困難者は学校に宿泊させました。非常食と水の備蓄は充分あったため、簡易食料を生徒に配布して食べさせました。

13 揺れが収まった後、登校している全生徒をグラウンドに避難させた。まず、日頃から徒歩、自転車での通学者のみ帰宅させた。次に電車が止まっているため、その他の生徒は校舎に待機。保護者が迎えにきた生徒を帰宅させた。(一番遅い保護者の来校は午前2時頃)帰宅できずに学校に宿泊した生徒は中高合わせて約70名ほど。

14 当日は学年考査も終わっており、講習・補習も午前中で終わっていた為に午後に残っていた生徒は約250名くらいでした。最初の地震時に全員をグラウンドに集めて諸注意をし、学校から出ないことを伝え、教員が全員の所属クラス名前を確認し、揺れが収まってから各教室で待機させましたが、しばらくしてまた、大きな揺れが発生したので再びグラウンドに集合させました。

グラウンド待機中にバスが動き出したので、徒歩・自転車・バス通学者に対して安全が確認できた生徒には帰宅をみとめました。徐々に地下鉄などが動き出し、保護者が迎えに来る生徒に関しては、安全確認が取れた段階で帰宅をみとめました。(自宅に着いたら学校に連絡させました。)学校が新たな対応をしていくたびに(生徒の帰宅開始も含める)HPに掲載をして知らせていきました。

結果的に帰宅困難生徒が110名になり、学校の隣に団参会館と言う宿泊設備が有るのでそこに宿泊させることにしました。教師が40名ほどいましたので、手分けをして学校に宿泊させる旨を生徒宅に連絡をしました。夕飯の食料は、防災用保存食は使わず、職員が手分けをして飲料水・食料（主にパン等）をスーパー・コンビニから調達し生徒教師に配給をしました。生徒約110名教師約30名が宿泊しました。

15 地震が起きたときは、生徒全員が校内にいたわけではなく、250人くらいがまだ学校にいました。

(1) 校内にいる生徒を体育館に集合、朝礼の時の順序に並ばせて、名簿に印をつけました。体育館は寒くないように、大きな石油ストーブで暖かく保ちました。

(2) 情報を仕入れ、外がどうなっているか、交通情報、道路状況、田町の駅の状況、など、実際に田町に行ったり、調べられるかぎりインターネットで情報を得ました。

(3) 外を歩いても危険はない、と判断をして、歩いて帰ることができる人は、家に帰りました。家に電話をして帰ることを伝え続けました。電話はなかなかつながらず、連絡は大変でした。また、家についたら、電話をもらいました。

(4) 歩いて帰ることができない生徒は、学校にそのまま泊まることとし、全員の家に電話連絡をしました。その際に、親が迎えに来られる人は、迎えにきてもらうことにしました。その結果、泊まる人は200人弱になりました。

(5) 17時になった時点で、生徒全員分の炊き出しを始めました。学校にお米が10キロありましたので、おにぎりを約500個作り、暖かいお茶を入れ、生徒に配布しました。

(6) 22時ころ、生徒に緊急用セットを配布しました。水、ケーキ、毛布、が入っているものです。その毛布の使い方も実演して生徒に知らせました。

(7) 生徒を学年ごとに分け、作法室、図書館、会議室、体育館、など、横になれる場所を確保して寝かせました。それぞれの部屋に学年の先生を当番制で配置して生徒と一緒にいるようにしました。生徒は比較的よく寝ていました。

(8) 親が迎えにくるのは、22時～夜中の3時、4時になりましたが、校長を始めみんな、ずっと玄関で対応しました。そのたびに名簿のチェックを確実にしました。

16 対策本部は電話・TVなどがある玄関脇の事務室に設置。交通機関がSTOPしたので、学園HPに体育館で宿泊させること、引き取りに来られる保護者は電話してから来校するようにとの情報を流しました。夕食は温かいものと考え、2学年にはカップ麺を、他学年にはお米を購入して炊いたおにぎりをお茶とともに提供しました。翌日の朝ご飯にも3時起きでおにぎりを350個つくりました。使ったお米は50キロでしたが、生徒の「先生、おいしい！ありがとう！」の言葉に元気づけられました。夜中も引き取りの保護者が次々に到着され、結局朝までに90名くらいは保護者と共に帰宅しました。

17 保護者にメールで連絡し、帰宅可能の生徒は帰し、困難な生徒は泊める許可を取りました。

18 学校に留めました。家族が迎えに来られる家庭は学校に来てもらいました。残った生

徒は毛布 2 枚を支給し、防災用品（リュックに各自入れて持っている）を持たせ、非常食を食べさせ、水分を補給しました。迎えに来られなかった生徒は、教室に毛布をひかせて、もう一枚をかけさせて寝かせました。その後の食事は小学校の給食の方に炊き出しをしてもらいました。残った教員も学校に宿泊し、生徒に対応しました。19^⑨ 本校ではメール配信システムを持っておりますので、安否確認をいたしました。帰宅途中の生徒、自宅に着いていた生徒など様々でしたが、けが等もなく大丈夫でした。校内に残っている生徒たちは、保護者と連絡を取り、迎えに来ていただきました。それでも、25名はすぐに帰宅できませんでしたので、学校に泊めました。

20 グラウンドから、各自荷物を持って以下の待機場所に移動させました。

中高男子：アリーナ

中学女子：柔道場

高校女子：剣道場

当日は採点日であったため、授業はなく、クラブ活動の生徒のみ登校していましたので、校内の生徒数は約 650 名でした。

その後、徒歩通学の生徒や親の迎え等で帰宅した生徒もいて、最終的に校内に宿泊した生徒は、約 400 名でした。

宿泊生徒には、全生徒分備蓄してある「アークスリー」（3 日分の非常食などはいっているもの）、毛布、マットなどを配布して宿泊させました。

保護者へは、メール連絡網とホームページを利用して状況をお知らせし、宿泊生徒の学年クラス番号氏名（苗字のみ）もホームページにアップしました。

電気、ガス、水道は止まっていませんでしたので、待機場所は暖房もあり大きな混乱もなく対応できました。

21 生徒が宿泊した各教室では「天空の城ラピュタ」を流し、生徒も静かに落ち着いて鑑賞していました。

22 その後の情報から交通手段が乱れ、当日帰宅させるのは無理と判断し、全員校内で待機してもらうこととしました。在校生には、緊急連絡網（メール）およびホームページにてその旨連絡をしました。具体的には、ご家族の方がお迎えに来られた数名を除き、校内で宿泊してもらうこととしました。炊き出しで夕食を用意し、非常用備品の毛布などを利用しました。安全のため教職員交代で寝ずの番をしました。

23 学校メール連絡網で、生徒の安否確認。学校 HP で対応を広報。

24 交通網が動いていなかったため、生徒は学校待機させ、保護者に連絡を取らせました。携帯電話の状況が悪かったため、学校の固定電話を開放し、とにかく連絡を着けさせました。（余談ですが、生徒の関西にいる親戚には、電話がかかり易く、その固定電話からかけると不通だった首都圏にもかなりの確率で繋がりました。）結局、交通網が動かず、生徒と泊まることになりました。本校は共学の為、体育館に男子生徒、会議室・6年の空き教室に女子生徒の寝場所を作りました。本校は毛布・アルミ防寒シート・ペットボトルのミ

ネラルウォーター・非常食が常備されていて、それを生徒に支給しました。ホームページにも生徒の無事をアップし、被災をして近くにいる生徒は学校に来るように伝えました。

(友達と遊んでいて帰れなくなった生徒も学校に泊らせました。) 学生食堂をお願いしている銀座スエヒロ様の御好意で夕飯はカレーの炊き出しがあり、翌朝のおにぎりも用意されました。学校としては、出来る限りの対応をしたのですが、やはり御心配の親御様も多く、お車で迎えに来られる方も多かったです。

25 交通機関が完全に麻痺しているため、保護者に学校まで来て頂き、引き取って頂く事にした。帰宅途中に地震に遭遇した生徒の中には、学校まで徒歩にて引き返した生徒もいた。緊急メールシステム(緊急時に生徒と保護者の全員および全教職員へ一斉にメールを配信するシステム)を利用したが、携帯および電話の不通やメール遅延が生じる中、215名の生徒を学校に宿泊することとなった。クラブなど団体単位に部屋割りをした。交通渋滞の中深夜過ぎに保護者が次々に到着し引き取って行った。

26 ※時間はおおよその時間

15:30 生徒の安否を確認

15:45 交通機関の運行状況をチェックし、家庭との連絡をとり、連絡が取れた生徒は帰宅(バス・徒歩で帰る生徒)。約800名の生徒が鉄道運休のため残る。

17:30 残っている生徒をHR教室に集める。安否の確認とともに家庭と連絡がとれていない生徒は引き続き電話・メールで連絡、しかし、ほとんど連絡が付かない。

PCサーバーに不具合が発生。

18:00 保護者のお迎えが始まる～深夜(最終1:00am)

19:00 被災時用セット(非常食・水・ブランケット)とおにぎり・菓子パンなどを配布。サーバーが復活し、学校で一夜を明かす生徒名簿を掲示。明日、後期試験を控える6名の生徒には応接室等を解放。80%の教職員が宿泊。

27 校内の生徒を確認。徒歩で帰宅可能な生徒は、職員引率で鎌倉駅、大船駅、藤沢駅方面に集団で下校させた。下校不能な生徒については、家庭に連絡後、建長寺に宿泊させた。夕食には乾パンを配布。朝食は建長寺にて体が温まるものを提供してもらった。その後、学校に戻り状況を説明した後、交通機関の復旧を待ち、家庭に連絡を取った後、下校させた。

28 ①学園内にいる生徒の名簿作成

②情報収集…固定電話、携帯がつながらなくなったため、主にテレビ、インターネットで情報収集

③徒歩で何度か広尾駅まで電車の運行状況確認

④非常食料、水の確認

⑤夕食炊き出し

⑥保護者出迎えの対応

⑦生徒約300名が校内宿泊

⑧教員はほぼ全員宿泊（生徒、保護者対応）

⑨学園HPでの状況告知 生徒名簿を保護者ページに掲載

⑩緊急家庭メールの発信

29 ①生徒120名を4つの教室にそれぞれ収容し、1名ずつ教員を配置。余震発生時は避難指示を出していた。

②TV放映で被害状況・交通網の状況を確認しながら、安全が確認できるまで生徒を校内待機を指示。

③15:54 ブログ発表。タイトル：地震による待機生徒について「現在、112名が校内に待機しております。待機している生徒につきましては、追ってお知らせします。」

※保護者が迎えに来た場合のみ、下校という対応開始

④17時過ぎ 交通網の復旧が困難と判断し、待機生徒・教職員分の食糧（150名分程度）を10名の教員が分担で買い出し。その後、学校内に保管してあった「防災グッズ」（保存水3本・スティックパン3袋・ブランケット1枚・簡易トイレ3枚入り）を人数分用意。

⑤17:54 ブログ発表。タイトル：現在、学校に待機している生徒の保護者へ「保護者の方が学校までお越しいただいた場合のみ、生徒を下校させております。来校できる保護者の方は、ご連絡の必要はありませんので、直接学校事務室へお越しください。」

⑥18:30 ブログ発表。タイトル：地震による待機生徒について「現在、学校に待機している生徒は以下のとおりです。（以下、クラスごとに出席番号と氏名を掲載）」

※これ以降、2:20まで1時間ごとに待機生徒を発表

⑦19:02 ブログ発表。タイトル：「東北地方太平洋沖大地震」への対応に関して「明日3/12(土)卒業式は3/14(月)に延期いたします。謝恩会につきましては現在未定です。明日12日(土)は全面休校となります。生徒は自宅待機でお願いします。なお、生徒は3/14(月)9:00に登校してください。

（学校待機生徒に関して）

本日11日(金)は安全が確認できるまでは学校でお嬢様をお預かりしております。食事の用意等はできておりますのでご安心下さい。」

⑧19:30 生徒に食事（おにぎり・サンドイッチ等）と水を提供。

⑨ 2:20 当日最後の保護者迎え来校。

※全職員、朝まで職員室待機

（翌日以降の対応）

1 翌日の考査を中止し、臨時休校にした。校内に泊まった生徒を集団下校させて、帰宅後の連絡を学校で受けた。考査は13日の日曜日に実施した。それ以降は予定通りに行う予定。

2 朝食として非常食をとった後、運転が再開している路線を利用している生徒から、順次

スクールバスで下校させた。

自宅に到着したら、電子メールで学校に連絡するよう指示した。

本校 HP に、全員が下校した旨をアップした。

3 翌 12 日（土）は出校禁止。14 日（月）、15 日（火）も部活動は中止。追再試や提出物のある生徒は出校可。

4 職員朝 6：30 に生徒の安全を確認、礼拝後、学校に待機していた生徒は 12 時までには全員帰宅、その後帰宅の確認をとりました。

翌日は新入生オリエンテーションを予定していましたが、中止を HP 上に掲載しました。HP をご覧にならない方のために、受け入れの準備をしました。5 名の方が参加しました。他のすべての活動は緊急連絡で中止を知らせました。登校者はありませんでした。

建設会社による建物の安全確認を実施。（現在建設中の校舎があるため、すぐに対応してもらえた）美術室の胸像が壊れたり、校舎に一部ひび割れなどが認められるが、安全上の問題はなかった。

5 土曜日は休校にした。また、計画停電の影響で 14 日、15 日の休校を 14 日未明に決定し、午前 4 時に一斉メールで連絡しました。

6 朝食として惣菜パン、1.5 リットル入りペットボトルの保存水を支給。宿泊生徒の保護者との連絡をとりつつ教室で待機。

7 朝、各家庭に連絡し、原則として保護者の方に迎えに来ていただきました。どうしても迎えにいらっしゃれないご家庭で、各家庭の申し出があり交通機関の安全の確認我できたものは、家庭に帰しました。（結果的には、午前中 9 時頃までに全生徒が帰宅しました。）

8 12 日（土）は希望者に対する「土曜講座」（上級者補講）を開講する予定でしたが、11 日の地震の後、「子ども安全連絡網」で延期の知らせを出しました。13 日（日）の 3：00 ごろには「14 日（月）は通常通り（試験の採点の確認日）。安全を確認の上登校するように」という連絡をしましたが、14 日（月）早朝 5：45 には、「交通網の混乱のため休校にする」旨の連絡をし直しました。

9 翌日は登校禁止の連絡網をまわし、生徒の登校を禁止する。

10 学校は休校とし、学校に泊まった生徒は、翌日の昼過ぎまでに家族の迎えなどがあり、全員下校できました。また、前日に連絡が取れなかった生徒についても、昼前には全員の確認が取れました。

11 必要な情報は、ホームページと一斉配信メールで保護者と生徒に周知した。日曜日の午後の早い時点で翌日の休校を決定し周知した。月曜日の午前中に職員会議で今後の対応を協議した。

12 14 日は計画停電のため、電車の運行が見込めないので休校としました。15 日の卒業式は中止いたしました。

13 7 時過ぎに朝食を摂らせ電車で帰れる生徒を帰宅させた。また、残りの数名もまもなく家庭と連絡が取れて帰宅。

14 翌日は休校（生徒登校禁止）の旨を HP と緊急連絡網でつたえる。宿泊した生徒・教員に対しては、学食の会社職員が早朝 来てくれて、宿泊していた保護者・女性職員の数名と早朝からおにぎり味噌汁を作ってください配給しました。

その後交通機関が動き出し帰れる状態になった生徒から安全確認後（帰宅ルート確認）帰宅させました。自宅に到着した段階で学校に連絡させました。最後の生徒が帰宅したのが午後12:30でした。（帰宅させたこと・全員帰宅完了したことを HP で知らせました。）

15 朝5時30分から、朝食のおにぎりを作り、お味噌汁も作りました。（前日にお米と味噌汁の材料を買ってきました。）

（1）生徒は学年ごとに、調理室で朝食をたっぷり取り、大満足でした。

（2）交通機関、地震の情報を得て、また、田町の駅、三田の駅に何回も行って、危険がないかどうかを確認しました。

（3）危険がないと判断された路線ごとに、生徒をまとめて帰しました。もちろん、親への連絡、家についたら、学校へ連絡を徹底しました。

（4）13時ころ、全員の生徒が学校から出ました。全員が家に着いたことを確認してから、14時前に教員も解散しました。

16 引き取りに來られない保護者もあるので、そういう生徒については帰宅経路別の班を作り、7:30から最も遠い生徒に合わせて教員が引率して電車で送って行きました。最後まで復旧しなかった「つくばEXPRESS」利用の生徒については、教員が柏駅まで送り、親御さんに引き渡したのは16:00でした。

17 幸い、生徒は休みの日でした。

18 残った生徒は全員元気に起床し、炊き出しの食事をとりました。動いている電車で帰宅できるものは帰宅し、残りの生徒は家庭の車で迎えに來たところから順次帰りました。全員無事帰宅しました。

19 メール配信システム等を使い、各家庭に連絡。とりあえず、翌日は臨時休校。その後、鉄道、原発などのことがありましたので、19日まで臨時休校を決定いたしました。

20 鉄道の回復状況を確認して、朝7:30から帰宅させ、メール連絡網・ホームページでその旨をお知らせしました。

3/12（土）、3/13（日）は登校禁止でクラブ等も無しとしました。3/14（月）、3/15（火）は休校としました。

21 各校追期間が開通し次第、安全を確認しグループ毎にまとめて下校させました。なお、その都度各家庭には緊急配信メールで情報を流し続けました。

22 翌日午前中もまだ交通手段に乱れがあったため、安全が確認されるまで校内で待機してもらうことにしました。その際、炊き出しで朝食、昼食を用意しました。

23 12日～22日を臨時休業、部活動禁止。23日以降は19日の職員会議で決定。

24 前日からの迎えに來る親の対応は、0時を過ぎても続きました。迎えに來る親が着くたびに、その生徒を起こしに行き、保護者に引き渡しました。結局、余震に対する対応よ

りも、その対応に追われ、朝を迎えました。(これも余談ですが、当日の都内の交通状況は、0時30分に芝公園にいと連絡してきた親が本校のある大崎についたのが3時40分。)生徒は6時起床で朝食を食べさせ、動き出した路線から、ある程度時間を置いて、帰宅させました。土曜日ということもあり、保護者の方も相当数お迎えに来て下さいました。10時半くらいにすべての生徒が帰宅しました。

25 翌朝、6時30分に再点呼の時点で143名となった。最終的に引き取りが完了したのは翌日の午前3時30分頃であった。交通機関の回復を確認し、生徒の帰宅、引き取りを進めた。最終引取り生徒は3/12(土)15:50。

26 時系列での動き

- 12日(土) 5:00 食料の買出し
 7:00 生徒に配布
 8:00 学芸大 後期試験受験生を送り出す

保護者のお迎えが始まる～

- 11:00 学園全体会議 ・15日の卒業式は延期⇒19日を決定
 ・14日に今年度行事の見直し

13:00 教職員 帰宅

- 14日(月) 9:00 職員会
 ・19日 終業式・中学3年卒業証書授与式 中止
 ・3月末まで休校(生徒登校禁止)
 ・通知表等は新年度に本人に手渡し
 ・教職員は通常業務
 ・アメリカ研修 上海ハーバード大学模擬国連は実施

- 23日(水) 学園全体会議
 ・入学式 延期 3日⇒9日
 ・高校1年HR研修(2泊3日) 中止
 ・生徒への春休み課題 延長
 ・始業式 オリエンテーション 内容を変えて実施

- 26・27日(土・日) 9:00～12:00 生徒登校可
 ・私物の整理・持ち帰り 但し 希望者 保護者同伴の上。

27 3/14以降3/22まで、自宅学習。クラブ活動も禁止。3/23終業式は、高校、中学の時差を設けて登校。23日以降のクラブ活動も自粛が前提であるが、近々公式戦がある場合のみ必要最小限で活動を認める。合宿、遠征も原則禁止。

28 ①夜間～生徒全員下校まで保護者出迎えの対応

- ②朝食炊き出し おにぎり 味噌汁 軽食
 ③鉄道運行状況把握 インターネット(最も情報が早かったのがツイッター)
 ④生徒は学園の固定電話で家庭連絡をした上で、下校(鉄道状況に応じて時間差)

29 ① 6:00 ブログ発表。タイトル：保護者の皆様へ「電話対応はいつでもできますので、以下の番号にお問い合わせください。03（3774）1151・1152・1153。

なお、昨日より学校に宿泊している生徒68名は、

1. 健康状態に問題はありません。
1. 食事（朝食）はパンとおにぎり、飲料水を6時30分に配ります。
1. 保護者の方でお子様を迎えに来られる方はご来校ください。（その際、電話をいただくと助かります）
1. JRは7時頃より一部電車が再開との報道ですが、安全な帰宅が確認できるまで学校で待機させます。
1. 7時以降、各家庭に本人より電話連絡をさせますので、連絡をお待ちください。」

② 6:30 朝食配付開始。同時に生徒本人が自宅に連絡開始。

※保護者が迎えに来た生徒に対しては下校という対応再開

③ 7:30 ブログ発表。タイトル：地震による待機生徒について「現在、学校に待機している生徒は以下のとおりです。（以下、クラスごとに出席番号と氏名を掲載）」

※これ以降、11:35に待機生徒が完全に下校するまで、30分ごとにを発表

④ 10時以降 保護者と連絡はついたが、迎えに来られない生徒を教員が分担し、保護者に引き渡すまで送っていく対応開始。

⑤ 11:35 待機生徒全員が下校完了

⑥ 12:36 卒業式（3月12日実施予定）の3月14日への延期、謝恩会（3月12日実施予定）の中止をブログ発表。

⑦ 12:40頃に教職員解散

3/14

① 9:00頃 3/15以降に予定していた、春期講習・3者面談の中止、3/21まで生徒登校禁止、3/22の修了式については後日連絡と決定。

② 10:00 来校できた卒業生・在校生で卒業式開始。

③ 10:03 地震発生により卒業式中断。在校生はすぐに下校させ、その後、体育館から場所を変更し、卒業生と保護者のみで卒業式再開。

※在校生下校の際に、3/15以降の登校に関するプリントを配付

④ 11:00 卒業式終了。その後、順次卒業生を下校させる。

⑤ 13:00頃に教職員解散。

（授業再開）

- 2 土曜、日曜は部活動を中止し、月曜日から平常通りの日程を行うこととした。
- 3 授業はもう終わっているなので、16日以後は通常の年度末のスケジュールに従って活動予定。（終業式、卒業式等）

- 4 21日（月）まで休校。様子を見て22日以降のことは決める。
- 5 すでに、試験休みなので無理に登校はさせない予定です。場合によっては終業式も行わずそのまま春休みにする可能性もあります。
- 6 生徒の安全を最優先に検討中です。
- 7 定期試験も終わっていたために、基本的には、修了式、中学卒業式だけおこなう予定です。
- 8 14日現在の段階では、生徒に登校させるめどが立っていません。教員もまだ多くは出勤できておらず、今後教員がそろってきた段階で検討に入ります。
- 9 幸いなことに、今年度の授業は終了している。（当日も部活動や自習の生徒のみであった。）
- 10 3月14日（月）も休校としており、授業再開のめどはたっていません。
- 11 3学期については、修了式も含めて中止とした。家庭学習に指示等をまとめて成績も郵送することとした。今後については、事態の推移を見て判断することとした。
- 12 状況により柔軟に対応する予定です。
- 13 本日（14日）現在、土曜に引き続き本日、明日共に生徒は休校。明後日以降は検討中です。
- 14 とりあえずまだ余震や交通機関の遅延があり、国が登校を控えるように考慮して欲しいと言っているので、3月16日まで休校（登校禁止）にして17日からの予定を変更して、卒業式（中学&高校）・終了式・講習・部活・春休み中の補習講習を行う予定です。
- 15 授業はないので、14日から17日までを休校とし、登校禁止としました。様子を見て、登校可能なら、18日卒業式予行、19日卒業式を実施します。状況によっては、予行なしで、卒業式を実施します。
- 16 期末考査は終了しているので、授業の心配はありません。
- 17 年度末で総合学習を延期しました。
- 18 授業は終わっていて、学年末試験も終わっています。
- 20 3/14以降のこの期間は授業なしで、行事のみの時期なので、当分休校とする見込みです。
- 21 行事が毎日予定されていましたが、すべて延期、中止とする。
- 22 3月18日の中学卒業式をはじめ、春期講習、補習、部活動、海外研修を中止とし、3月23日まで生徒は登校禁止としました。卒業式は3月24日、終業式は3月25日に実施することにしました。
- 23 授業は行わず中学卒業式と、終業式のみ。
- 24 14日から学校を再開させる予定でしたが、交通網が平常に戻るまで休校になりました。
- 25 本年度の授業はすべて終了していた。中学部の卒業式、修業式は中止。高等部卒業式は延期、状況により中止とした。春休み各活動は一切中止。生徒の登校を禁止とした。計画停電によるなどの影響による次年度についての対応は決まっていない。

26 2011年度

4月3日(日)まで休校(生徒登校禁止)

4日(月)職員会議 学年会 教職員健康診断

5日(火)始業式準備 教職員健康診断

6日(水)旧中学3年 卒業証書授与式

始業式

・時差登校 9:00 中学3年

9:30 中学2年

10:00 高校1, 2, 3年

・最終下校 13:00

7～8日 中学 オリエンテーション 時差通学

高校 模試 HR 時差通学

9日 中学入学式 11:00

※クラブ活動は4日以降、14時～16時。週末に公式戦を控えるクラブ、入学式に参加するオーケストラ

11日以降は通常授業(予定)

27 3/12は、新入生ガイダンスの予定だったため、もともと授業はなく、授業への影響はなかった。計画停電によりJR東海道線、横須賀線のダイヤが乱れたため、講習期間が2日間残っていたが、14日以降も休校とした。通常授業、定期考査ともに終了していたために、授業の進捗に影響はなかった。

28 休校に。

29 3/22の修了式については実施するかどうかを検討中。3/23(水)～26(土)に予定していた春期勉強合宿(5年生対象)は、ホテル設備の損傷等もあり中止。

(その他)

14 特に有りませんが、慌てることもなく落ち着いた行動が取れたとおもいます。でも、東京が壊滅するような状況でしたらどうなるかわかりません。食堂の方や保護者の方の応援がありがたかったです。

15 教員は、14日は、半数の教員しか、学校に来ることができませんでした。学校に登校困難の連絡があったとき、無理をしないで、自宅待機としました。教員は15日は自宅待機。16日からは、自宅待機にするときは、朝6時に連絡をすることにしました。どうしても、成績会議をしなければいけないこと、卒業式の各賞の授与を決めなければいけないからです。

16 クラブ活動・補習・終業式・中学卒業式はすべて取りやめました。高校卒業式も、下級生の参列のない中で行う予定です。

25 春休みの課題、連絡については学年ごとにHPに掲示板を作成して連絡することにな

っている。

27 3/22に予定していた中学卒業式は中止。ただし、23日終業式の中で、卒業生だけで簡単な形で式を行うことに決定。

28 卒業式、修了式の中止。

29 教員については3/16～19は自由出勤。

(3) 事前に準備していた地震への対応は役に立ちましたか1

1 人数が少なかったので、準備していたことで対応できたが在校生全員が宿泊する際の手順等の打ち合わせが不足している。

3 防災用品は非常に役立った。災害時の緊急連絡網は電話、FAX、メールともなかなかつながらなかった。HPでの生徒向け連絡版は有効であった。

4 有効だった。災害訓練の一環で、根岸線を使わない訓練を実施していた。今回はまさに根岸線が桜木町～大船間が12日も不通になっており、この訓練が大変有効だった。

5 その時の状況でマニュアル通りにはいかないことが理解できました。今回は試験休み中であつたので対応ができましたが、全員が校内いた場合については再考する必要があります。

6 そう感じております。

7 定期的に行っている防災委員会(校長・教頭・事務長・教職員の代表)が、ちょうど2日前にあり、地震への備えなどの再確認がおこなわれていたために、非常にスムーズに対応ができました。

8 役に立ちました。本校では毎年『防災計画』のマニュアルを作成し、そこに記載された「自営消防隊編成表」に基づいて各教員が行動することになっております。今回、火災が起きたわけではないので、全ての班が必要となったわけではなく、適宜動く部分が多くなりましたが、必要なことの指示は該当班から出され、皆がそれに従って行動しました。

9 備蓄していた乾パンなどが当日役に立った。しかし、乾パンだけでは足りないため、昼食を依頼している業者に炊き出しをお願いした。

10 例年行っている避難訓練と同じような形で生徒の確認が取れたため、大きな混乱もなく生徒も落ち着いて行動できていたので役に立ったと思います。また、PTAからも助成していただいている「災害対策用品」(水、乾パン、災害用ブランケット)が大いに役立ちました。広域避難場所にいるときは結構寒かったので、学校から持参したブランケットで寒さをしのいでいる生徒が多かったです。学校に戻ってからは、乾パンや飲料水を配給したため、生徒も落ち着いて待機できていました。

11 おおむね役立ったと思う。本校は、宿泊設備もあるため、食事と宿泊については他校に比べて安心して対応ができた。

12 大変役に立ちました。混乱なく対応することができました。

13 毎年行っている避難訓練通り、スムーズに行動ができた。非常食、飲料水、毛布を備

蓄していたため、大変役に立った。

14 避難訓練等でやっていたことは出来ていた用におもいます。特に教員が落ち着いた行動と生徒への指示が出来ていたと思います。

15 地震と同時に全員が机の下にもぐりました。体育館への移動も防災訓練が役にたちました。緊急用品を生徒に配り、生徒は利用しました。毛布は暖かかったようです。生徒も教員もおちついて対応できました。

16 各学期の避難訓練が役立ちました。防災頭巾や備蓄の毛布・レスキューシートも役に立ちました。当学園では授業がない時期には、登校生徒は玄関においた学年ごとの登校簿に登校時刻・下校時刻・登校目的（クラブなど）書くのですが、これがあったため、名簿作成が容易でした。また、非常時のために帰宅経路別の集合訓練も行っていたので、生徒は手際よく行動することができました。

17 毛布。乾パンなどの備蓄が役に立ちました。簡易トイレもありましたが、幸い水・電気が大丈夫で出番はありませんでした。

18 防災用品の完備が大いに役立ちました。また保護者全員に対して E-mail 連絡網がとても役立ちました。細かく各家庭に連絡がいきわたりました。

19 とにかく、生命の安全確保を第一優先としたことは、徹底されたと思います。

20 校内備蓄として、準備していた物資がとても役にたちました。今回は使用しませんでした。自家発電である程度の電源も確保できる見通しがあったことも心強かったです。

21 大変役に立ちました。

22 在校生については、定期的に避難訓練を実施しており落ち着いた行動がとれました。また、非常用備品が大変役に立ちました。

23 「どうするんだっけ」という題名の、災害時、交通障害、不審者などの対応マニュアルを冊子として作成し、全教職員に配布してあった・・・にも関わらずそれを見ていないで「どうしようどうしよう」と、対応策を考えて、その場で思いついた「あれもやらなきゃ、これもどうする」で混乱。「どうするんだっけ」は机の奥深く眠ってしまっているようで・・・

24 非常食セット・毛布は非常に役立ちました。

25 防災用品を備蓄していたため、生徒の宿泊対応は比較的順調にできた。

26 防災訓練での効果はあったように思う。

地震発生時：机の下に身を隠す

避難場所への移動：放送での支持に従い自主的に行動できた。クラブ活動中であり、教師の誘導が難しい状況の中、部長、上級生の指導で避難場所（グラウンド）へ移動、クラブ員の安否を確認がスムーズに出来た

27 乾パン、飲料水の備蓄、懐中電灯、ラジオの準備は大いに役立った。

28 準備していたことはすべて役に立った。生徒対応+保護者対応。想定外であったのが携帯、固定電話までつながらなくなる事態。いかに間違いのない情報をいち早く収集して

次の対応をするかが重要になった。

29 ①「防災グッズ」として用意していた備品はとても役立ちました。特にブランケットは生徒が宿泊するにあたって使用することができました。

②生徒120名に対して教員が32名いたので、生徒は混乱することなく避難することができました。

(4) 今後の対応として、今回の反省点や新たな取り組みの必要性を感じたことはございますか

1 今回は地震の規模は大きくなかったのですが、大きな混乱はなかったが、大地震の際は近隣の方々の受け入れ態勢等課題が山積している。

2 教頭、教務、生徒指導、広報、学年主任等主要な役職者が在籍していたため、それぞれの業務と関連のある内容を中心にスムーズな対応ができたが、誰かが欠けていた場合、その役割を誰が負うことになるのかある程度の共通理解が必要だと感じた。

3 今回はライフラインが止まらなかったのが助かったが、もし止まっていたらかなりの混乱があったことが予想される。通常の避難訓練が役立った面もあったし、今回は非常に良い訓練になったと思う。

4 HP、一斉緊急連絡などもあるが、携帯電話、普通電話も通じず連絡方法に更なる工夫が必要。

登校、下校中の避難方法を考える必要がある。徒歩30分の保護者が生徒を一人で帰すように強く依頼してきた。安全を考慮し帰さなかった。正しい判断だと思うが、保護者の理解を事前に得ておく必要がある。

本校はテニスコートと校舎が離れており、連絡に一部遅れが生じた。実際には素早く対処できたが、今後はトランシーバーなどの緊急連絡方法を検討する。(現在は携帯電話で対応)

5 どの範囲まで徒歩で下校させるかによってその後の状態に大きな影響を与えるかが判明した。

6 検討中です。

7 これから会議を開いて考えていきます。

8 大きな混乱は無かったとはいえ、もっと迅速に対応できなければならなかったことは多くあったと思います。当日、教頭が不在(数時間後、出張先から歩いて学校に戻りました)であったこともあり、指揮系統が明確でないと思われる動きも最初の段階ではありました。誰かがいないということは当たり前にあることなので、どういう場合でも迅速な対応ができるように、もう一度指揮系統の確認をしなければならぬと感じました。

また、防寒の準備も十分ではないと感じました。今回は一度使えなくなっていた暖房が復旧したのでよかったのですが、そうでなかった場合には、かなり寒かったであろうと思います。さらに、水道が使えなくなった場合のトイレやその他の対応も、もっと現実的に考え、準備しておかなければならないとも思いました。

- 9 家庭との連絡を取るのに苦労した。今後は保護者のメールアドレスを登録してもらうことを検討している。
- 10 現時点では、総括している時間がないため、ある程度落ち着いてからまとめたいと考えています。まずは、生徒全員にケガや被害がなかったので一安心です。
- 11 帰宅途中に帰宅困難者となった生徒との連絡について、携帯電話を所持していない生徒や携帯での連絡が取れない場合の対応を考える必要がある。生徒に怪我がなかったことで、落ち着いた対応ができたこと、テストが午前中のみ状況であったので、安否確認は大変であったが、帰宅できない生徒が比較的少なかったことなどで助けられていたので、そうでないケースについての対応方法は見直す必要を感じた。
- 12 電話・メール・ホームページの有効順位が今回の大地震でよく把握できましたので、この経験に基づいたより完成度の高い、防災マニュアルを作成する準備をしております。
- 14 全校生徒が在籍していた場合は今回のような対応はできない。マニュアル通りに対応をすることになるが、教職員がうまく対応出来れば、まずまずではないかと思えます。ただし地震の規模にもよるとおもいます。
- 15 保護者への連絡に手間取りました。携帯も家への電話もなかなか通じなかったためです。インターネットが通じず、情報を得るのに苦労しました。
- 16 生徒が300名だったので十分な対応が出来ましたが、これが全校生徒1030名であつたら、と思うとぞっとします。人数が多い場合の対応が課題となると思えます。
- 17 生徒の帰宅経路の把握をしたいと思えます。
- 18 たまたま授業がなかったので生徒数が少なかったため、一人一人十分に対応ができました。全員が残った場合の対応をあらためてもう一度確認する必要があると思われます。
- 19 簡易トイレや非常食など3日分は十分に確保しておりますが、ライフライン等は3日くらいでは復旧しないことがわかります。このあたりのことを再検討する必要がありそうです。
- 20 今回は、平常授業時でなく生徒全員ではなく人数が少なかった分だけスムーズな対応がとれたと思えますが、約3000人の全生徒が学校に宿泊するとなった場合は、さまざまな点で改善すべき点があつたと思えます。
- 22 今後も今回のように何よりも生徒（今回は保護者も含む）の安全を最優先にして、教職員で冷静に対応できるようにしたい。
- 23 「メール連絡網」で各自の安否を「各生徒（家庭）からの返信」で確認できるシステムを持ち、練習もしていたのに地震発生から2時間以上経ってから「事故に巻き込まれていたら学校に一報を入れてください」はお粗末でした。一報を入れようにも電話はかからず・・・そのためのメールであつたのですが。普段の訓練が大切ですね。
- 24 一番対応に困つたのは外部に出ていたクラブの安否の掌握でした。今後は、どこに行くかによって避難場所を考えておく必要があるかもしれません。（今回は活動場所の近くにお勤めの在校生の保護者にお世話になりました。）

25 今回の経験により、徒歩などによる教師が付いて方面別のグループ下校は無理であり、基本的に保護者が引き取りに来られるまで学校で預かることが最善と理解できた。災害時のメール遅延などを予測できず、緊急メールシステムに頼り過ぎたために連絡を行き届かすことができなかった。HPや電話連絡も活用すべきと感じた。帰宅途中で地震に遭遇した生徒達の安否確認の方法や指導を検討しなければならないと感じた。

26 家庭との連絡方法を再考する必要がある

- ・放課後（授業は午前で終了）であったため 生徒の安否の確認に手間取る
- ・時間的に帰宅途中（車中）の生徒が少なからずいたため若干混乱
- ・備蓄品の再検討

27 停電時に備え、もっとライトの数を増やしたり、情報収集のためテレビ受信ができるようにすることが必要である。また、どの範囲まで生徒を徒歩で帰宅させるかという基準作りや該当する生徒数の把握も今後必要であると考えている。

28 ①緊急時の連絡方法 携帯、固定はもちろん、災害登録のサービスも使えなくなったと聞いている。残された方法は学園 HP と緊急家庭メールの2つ→これが緊急時の連絡方法であることの理解が家庭にも必要。

※ただし、このメールも何らかの事情で届かないケース、家庭での登録が間違っているケース、まだ未登録のケースもあり、100%着信ではなかった。

②緊急時の情報収集 テレビの伝える情報が、こちらの知りたい情報に合わないことを痛感。ネットを使った情報収集及び連絡手段の準備。

③（今回は避けられたが）まず電気がストップした場合の対応。

29 ①図書室の蔵書・調理室の食器類が地震によって落下・破損したため、現在、対応を検討しています。

②現状でも余震・計画停電による交通網への影響等が続いておりますので、必要に応じ、対応中です。